

平成29年(2017年)7月15日発行

主体的に受けとめる



私たちの生活の中では、すべて自分の思うように事が運ぶとは限りません。忙しいときに限ってトラブルが発生したり、大変な仕事が発生したり、大変な仕事が発生したり、時には不運かかってくることもあり、時には不運かかってくる出来事がやってきて、どうして自分だけがこんな

な思いをしなければならぬのか、と感じることもあるでしょう。

しかし「自分自身のイライラした気持ち」こそが「次のトラブル」の原因となつていく——そんな可能性もあるのではないのでしょうか。

人生を送るうえで、必ずいろいろな問題に直面するものです。そこには、無意識のうち招いてしまった問題や、自分には直接責任がないと思われる問題もあるでしょう。しかし、いずれにしても、私たちは時間をさかのぼって人生をやり直すことはできません。また、他の人に自分の境遇を代わってもらうこともできません。

「問題に直面した」という事実が変えられないのであれば、文句や愚痴を言うのではなく、むしろその問題を主体的に受けとめ、前向きな気

持ちで事態の改善に取り組みたいものです。思いがけない困難や不運をも「自分の人生を好転させるきっかけ」として、感謝の心で受けとめる人は、いかなる逆境にあつても力強く生き抜くことができます。

そのような歩みが続けていったなら、時がたち、冷静に振り返った際に「あの出来事があったからこそ、今の自分がある」と思えるときが来るのではないのでしょうか。

(参考)モラロジー研究所「ニューモラル」五七十二号)

■公益財団法人モラロジー研究所

千葉県柏市。モラロジーは「道徳」を表すモラルと「学」を表すロジからなる学問名。倫理・道徳の研究と、社会教育を推進する研究教育団体です。

【お問い合わせ】広報部

04-7173-3341

■心を育てる月刊誌「ニューモラル」見本誌贈呈(お一人様、一度に限りです)

住所・氏名・電話番号・

「なのはなシニア千葉」を明記して出版部にFAX(04-7173-3324)を